

---

# ヒーロータイム、はじまるよ

春猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヒーロータイム、はじまるよ

### 【Nコード】

N2671N

### 【作者名】

春猫

### 【あらすじ】

「この世に悪のある限り、無限の力でぶちのめす！ か弱き人の楯となり、未来を開く剣となる！ 宇宙の力、身に付けた、正義のヒーロー、オメガスレイヤー！ 悪党ども、覚悟しろ！」

・・・なんて、全然本心じゃないんだけどねえ。

口からこぼれる正義のセリフ、真つ赤で派手なコスチューム、ポーズを取れば効果音、BGMもバツチリと、正義のヒーローにさせられた、若槻拓郎式拾六歳独身。今日も頑張ります（汗）。

第一話・ヒーロー誕生！ その名はオメガスレイヤー！（前書き）

「うちづちん」のセリフが読みづらいたは思いますが、いちおう演出ですのでご了承ください。

## 第一話・ヒーロー誕生！ その名はオメガスレイヤー！

ちやらっちやっちやっちや、ちやらっちやっちやっちや、ちやら  
ちやっちやっちやちや

ちやらりらちやらりりくん ずん、だ、だだっだだ、ずん、  
だ、だだっだだだ

「この世に悪のある限り、無限の力でぶちのめす！ か弱き人の  
楯となり、未来を開く剣となる！ 宇宙の力、身に付けた、正義の  
ヒーロー、オメガスレイヤー！ 悪党ども、覚悟しろ！」

どっか〜ん！！！！！！

「とうっ！！」

……ってな感じで今日も戦ってます。

若槻拓郎式拾六歳独身、機械部品メーカーの営業兼「正義の味方」  
やっています。

いまだに慣れなくて強化スーツのヘルメットの内側では赤面しま  
くりだけどねえ。

これが、幼稚園、せめて小学校低学年だったら喜べたんだろうけ  
ど、社会人3年目、「3日、3ヶ月、3年目」と言われる会社辞め  
たい時期のピーク！ ……なんて年齢の身にとっては罰ゲームに  
近いわけですよ。

赤をベースに黄色と黒でラインが入り、所々サイバーっぽい光ま

で走っちゃってるコスチューム（ヘルメット付きのデザインには感謝だね、そうでなきゃ恥ずかしさのあまり自傷に走るかもしれん）。ポーズやアクションの度に響き渡る効果音（キュピーン！とかズシャア！とか、もうね、うるさいんだ。夜間の出撃とかだとヒヤヒヤもんだよ。）

シーンやシチュエーションで変わるBGM（効果音と合わさって歩く音響兵器状態。うちうぢん曰く「くうかんそのものをすぴーかにしてるよ。うちうぢんたちすごいでしょ」だそうだ。まあ、カッコいいといえばカッコいい音楽なんだけどねえ。モニター越しとかなら（汗））。

自分の意志に反して口から流れる正義の台詞（ヒーローらしいセリフが勝手に口から出るんだよ。もうね、寝る前に思い出していたうちまわるレベルのいかにもなセリフが）。

決めポーズや台詞に合わせて周囲が唐突に爆発したりするし・・・（最初はビビってビルから落ちた事も・・・。てか、なんなんだよ！ 爆発は凄いいけど周囲に全く被害ないし）。

あの、「うちうぢん」共め！

俺の人生を帰してくれ！

・  
・  
・  
・  
・  
・

「(=。。(ノいよう ようこそ、ばーぼんはづすへ」  
目を覚ますと薄緑色の液体越しに変な生き物(?)が話しかけてきた。

「こ・ぐあほう・・・ごぼごぼ」

話そうとしたら液体飲んじまった。

こつちが液体の中に居るのかよ！

なんで呼吸平気なのかわからないけど・・・。

動かした手がガラスっぽいものに当たる。

あ、もしかして培養槽っぽいもの？

俺、死んでうちゅーじんに蘇生されたとか？

どこの「鉄腕バーディ」だよ！

「あー、うちゅーじんじやないよ、うちうぢん」

毛のないラクダみたいな顔の自称「うちうぢん」が人の思考に口を挟んできた。

「うん、かんがえてるだけでつたわるから、こえをだすひつよーはないよ」

えっと、なんで俺はここにいるんでしょう。

「( ^ ^ (ニコニコ えーとね、ぼくたちはいいうちうぢんね。きみにちきゅうのせいぎをまもるためのちからをあげます、はい」

「おめがりゆうしのちからで、きみはすーぱーひーろーになれるんだ、すこいね」

「( ^ o ^ (ノおめでとう、きみはえらばれしせいぎのゆうしやだ」

・・・口々にうちうぢん共が説明してきたが、ひらがな多すぎて





なんか、このうちうぢん共、妙にマニアックじゃないか？

「わかつきはきょうからおめがすれいやーとしてあくどたたかっ  
てくれ！」

「せがたはふだんはきつさてんのますたーで、ひみつきちのしれ  
いちょうかんね」

「うむっ！ 正義の為に頑張るぞぉ〜！」

俺を無視して話が進んでいきます。

にこやかな笑顔で、せがたさんが肩バンバン叩いてきますが、こ  
の人、加減つてものをたぶん知らないでしょう？ むっちゃ痛い  
です。

「じゃ、てんそうねー。ぼちつとなー！」

うちうぢんの声と共に光の膜に包まれて、気が付くと「いかにも」  
なメカニカルな部屋の中にせがたさんと俺が立っていた。

と、モニタースクリーンに人が映り、「ようこそ！ オメガベ  
スへ」との声が。

………が、なぜに初音ミク？

第一話・ヒーロー誕生！ その名はオメガスレイヤー！（後書き）

お読みいただきありがとうございます^^

気軽に読める分量、内容にしていきたいと思っています。

**第二話：新生オメガベース！ ヒーロー始動！（前書き）**

更新されてない警告が出てました^^；

意欲はあるんですけどねえ、とどっかで見たような言い訳をしてみたり

良ければ読んでやってください



レベータを使用します。ベースのエリア内にあるアパートを買い取りましたので、オメガスレイヤーはそちらに引っ越してください。」

引っ越し！？

「引っ越してください。」

・・・わかりました。

「アパートの大家の斎藤さんは協力者ですので、若槻さんの正体がオメガスレイヤーである事がばれても平気ですし、誤魔化すのも多少は協力していただけです。」

いや、だから逆じゃね？

「斎藤さんは「働いたら負けかな？」と思ってる方ですので、基本的にはあまり積極的には動いてくださいません。多少のトラブルは自力で解決してください。」

それ、なんて二ート？

「アパートの住人は関係者のみです。その点では気楽かと。オメガスレイヤーさんの部屋は2階の3号室、2号室はせがたさんで、1号室はうちづんの地球活動拠点になります。1階の1号室が斎藤さんの部屋。2号室はオメガベース開発主任の五木田さん、3号室はオメガベース調理主任の轟さんです。お二方は今、色々と外に出ていますので、後ほどの顔合わせとなります。ここまでで何かご質問はございますでしょうか？」

引っ越しかぁ・・・メンドクサ〜。

「ま、会社が徒歩圏内になるのは楽そうだけどね。」

「では引き続き、オメガスレイヤーさんのお仕事について説明させていただきます。勤務先はこれまで通りですが、部署を第三営業課に移っていただくことになりました。」

「ちょっと待てえー！」

「開発職で入れるトコだったので、今の会社入ったんだぞ！  
なんで営業？」

「外回りが多い仕事の方がオメガスレイヤーとしての仕事に都合がいいからです。営業と言っても取引先法人巡回とトラブル対応です。実質サラリーシーフですね。ノルマも無ければ、競争もありませんので、営業とは名ばかりの御用聞きみたいなもんです。しかも取引先のうち2社は、私たちのダミー企業ですので勤務時間内に抜け出しても、いくらでも誤魔化しがききます。」

「あー、つまり、喫茶店やパチンコ屋で時間つぶしてるような営業ね？」

「世間の目を欺く仮の仕事についてご理解いただけた所で、本業のオメガスレイヤーですが、24時間勤務、三百六十五日無休です。」

「<ナンダッテー！」

「ま、相手次第の仕事なんで、何も無い時は何も無いです。悪が出ないと、こっちも給料泥棒になりますね。」

「給料泥棒って・・・給料出るの!？」

「復讐だの世界平和に燃えるだの、そういつた経緯ありませんからねえ、オメガスレイヤーさんの場合。拘束も厳しいですし、分かりやすい形で『お金』をお支払いする事でその労をねぎらう事にしました。」

「おおー！ これは燃える！」

今までの無理矢理な展開も許せるかもしれない。

「契約金＋支度金として1500万円、これは後ほどキャッシュで支払わせていただきます。基本給は月50万円で出撃1回につき10万円の危険手当が付きます。また、午前零時以降の出撃には深夜手当が1時間当たり1万円、ベースから200？以上の遠方への出撃には出張手当が1回につき5万円。また最終的に敵の目標を完全にくじいたり、敵組織をせん滅したりして、オメガスレイヤーの存在が不要になった場合、退職金として3億円が支給されます。これは再起不能の怪我を負ったり、死亡した場合にも支払われますので、受取人の指定がある場合は事前に書類の提出をお願いします。」

「死亡した場合」ね・・・。

「そうだよなあ、特撮やアニメと違うんだから、こっちが死ぬ場合もあるわけだよな。」

金で高まったテンションが落ちて行く。

「うちうちの技術とオメガパワーがありますので、まず死んだりする事はないと思いますよ。極端な話、細胞がひとかけらでも残ってれば復活可能ですし、強化スーツはこの太陽系の第一惑星、水星でしたっけ？そこでの活動が可能なレベルですので、内部で骨折とかはあっても強化スーツ自体が破壊される事はまずあり得ません。」

細胞のかけらから復活したのが果たして「俺」なのか？ って疑問はあるけど、そうそう死ぬって事はないのかな？

太陽に突っ込んだ筈のせがたさんを助け出してるくらいだしね。

「ご理解いただけた所で、こちらの書類に御記名をお願いします。あ、ハンコは拇印で結構です。はい、どうもありがとうございます。これで、たった今、これから正式にオメガスレイヤーとして活動していただくことになりました。オメガスレイヤーさんは引越し等の作業もあると思いますので、今日はこれで一時解散という事になります。お疲れ様でした。」

ミクの声に送られて、サムアップ笑顔のせがたさんにお辞儀をして、部屋を出る。

気づくと足元を何かがちよこちよここと動いてる。

はちゅねミク？

**第二話：新生オメガベース！ ヒーロー始動！（後書き）**

大変、申し訳ありませんでした

パソコン不調でテンションだだ下がりです。^^；

なんとかペースをあげていきたいと思えます

第三話：ヒーロー激闘！ 悪の秘密結社アルファルファ！（前書き）

ヒーローがオメガなんで、敵はアルファです

非常に敵に回したくない敵組織にしてみました

唯我独尊系の主人公でもない限りストレス確定です

### 第三話・ヒーロー激闘！ 悪の秘密結社アルファルファ！

ヒーローというからには当然敵は居る。

俺の場合、敵の組織名は「秘密結社アルファルファ」という、非常に取りがちな名前の悪の組織だ。

悪の組織だけあって、そのやり口は非常に汚い。

「うわああああん、ゼモスビータが倒されちゃったよお（T|T）」

ポロポロと大粒の涙を流して、泣きじゃくる幼女。

誰だよ、泣かせたの！

俺でした・・・生まれてきてご免なさい（・・・）

自分の娘だったら自慢しまくと共に、あまりの可愛さに何かあるんじゃないかと不安になって、ストーキングしまくったあげくウザがられて嫌われて落ち込む羽目になるレベルの可愛さだ。

幼いなりに顔は整っており、ぱっと見可愛い、よく見ると美しいという無敵幼女。

うん、これ、敵の幹部なんだ。

人々に害を及ぼすモンスターを倒したわけなんだが、途中までは



せめて「うちうづん」が美少女型なら……現実には毛の無いラクダ顔だぜ？

長官はせがたさんだし、開発主任の五木田さんは千葉繁ボイスがばっちりハマるマッドな技術者だし、調理主任の轟さんは汗の代わりに食用油が出てるんじゃないかっていうくらい油ギツシユな太っ腹なおっちゃんだし。

潤いが敵からしか得られないって、どうよ？

（それに俺はロリでも変態という名の紳士でもないしなあ……）

しかも敵幹部、どうも小学校とか、幼稚園とか通ってるっぽくて（戦闘中におともだちからかかってきたっぽい携帯電話の受け答えから推測）、出勤は土日、夕方がメインだし（深夜がないのは有り難いが、土日がほぼ毎回潰れるのはツライ）。

確かにオメガスレイヤーやってるから口座には金は増えてくが、使う暇も使ったもので楽しむ暇もない。

贅沢って言っても、せいぜいマクドナルドで普通のハンバーガーだったのがビッグマックになった程度、あるいは牛丼にサラダと卵を付ける程度。

しかも社内的に、幹部候補の出世コースに乗った事になったって扱い（部課長が間に無しの営業部長直属扱いだつてさ）らしく、今までの同僚とかとはいっつきに疎遠になるわ、同僚と呼べる相手は新しい部署にはいないわけで、会社の中に居場所がありませんです。

敵戦闘員が必死に幹部幼女をなだめてる。

いや、もう流石に戦闘にはならねーし、帰ってもいいんだけどさ。ここで俺が先にこの場を立ち去ると「悪いことして逃げた」みたいになるじゃん？

それはどうよ？ とか思う訳でさ。

あー、煙草吸いてえ……。

「おつかれさまでした」

「……………おつかれによる」「……………」

ベースに戻るとミクとはちゆねたちが出迎えてくれた。

うん、マジで疲れたよ。

女の子の泣って最終兵器だろ？

毎回連発しないでほしいよなあ……。

あの後、戦闘員たちがお菓子とぬいぐるみであやしなから、敵は撤退していった。

あっちの戦闘員も大変そうだよなあ。

ま、ロリには天国かもしれんが……って、あいつら全員ロリだったらやだなあ^^；

せがたさんはいないみたいだね。

また珈琲道を邁進してるのか？

おいしいんだけどさ、せがたさんの入れたコーヒー。

一杯作るのにやたら時間がかかるんだよね。

豆に感謝の祈りとか捧げるし。

今日はもう帰って寝るわ。

（＝。。）（ノおやすみ〜

「おやすみなさい」

「「「「「おやすみによる」「」「」「」

**第三話・ヒーロー激闘！ 悪の秘密結社アルファルファ！（後書き）**

本編には登場しませんがベース地上エリア内に胃腸科の病院があります

主人公はヒーロー始めてからそこに通院してます^^；

**第四話・ヒーローの秘密！ 新必殺技登場！（前書き）**

久々の更新です。

いまだにヒーローらしい姿といえば、初回にチラツと出た程度しか

w

#### 第四話：ヒーローの秘密！ 新必殺技登場！

前回登場した敵秘密結社アルファルファだが、世間一般の評価は「悪」と決めつけるには曖昧なものだ。

「というのもこの組織、スローガンが「都市文明の破壊と自然の再生」というもので、都市での破壊活動と並行してその科学力を用いた環境保護・再生や、ゴミを不法投棄に来た産廃業者の討伐や、河川の清掃などボランティア的な活動もおこなっているからなのだ。

都市の破壊と言いながらも大規模破壊兵器を用いる訳でもなく、怪人が暴れるという程度。

ボランティアの方はしつかりと地元住民との連携も取れていたりにして、そっちの方に俺が顔を出そうものなら寄ってたかつて石を投げられるなんてことも十分考えられる。

ヒーローと言いつつ、かなり切ない状況だ。

しかもだ。

この敵組織、うちうちの言う「地球の危機」とは全く関係ないんだと。

テンション更に下がりがまくりだっちゅーの！

で、だ。

アルファルファがそういった感じで地道にイメージアップを行っているので、オメガスレイヤーとしてもイメージアップを凶らないとアルファルファの敵「悪」認定を受けてしまいそうなので（無責任なネット掲示板では敵幹部の応援スレやらハアハアスレ、戦闘実況のスレ、アルファルファのボランティアに参加しようぜスレなどと

共に、オメガスレイヤー死ね、氏ねじゃなく死ねスレとかあったりする始末）、最近は地道に街のパトロールをして困った人を助けたり、小悪党を懲らしめたりしている（それでも、そんな暇ありやもつとヤクザ壊滅させたり、悪徳政治家戮せよ！ などと言う声があるけどな。）

そんなこんなで地道に活動してるんだけどさ。

オメガスレイヤーの力、凄いし、武器も超ツエーじゃん？

一般人レベルの小悪党だと、手加減してもオーバーキルになるし、かといって逃がす訳にもいかないんで、その加減にアルファルファのモンスター相手するのの数十倍疲れるんよ、マジで！

てなわけで、本部で五木田さんとミクとで作戦会議開いてます。

「そういう訳なんで、既存の武器の手加減設定か、非殺傷の新武器が欲しいんですが！」

「ちょうどいい、これなんかどうだ！ プラズマバルカンって名付けたんが、一撃で戦車を撃破するプラズマボルトを一分間に87発発射出来て、装弾数6000発だ。こいつは凄いぞう！」

「いや、だから、それじゃ都市住民、関係ない人まで皆殺しにしちゃうでしょーが！」

「そうですねよ、五木田さん、ここはオメガスレイヤーのオメガスレイヤーたる所以、オメガ粒子を用いて一撃で敵を倒す武器にすべきです。」

「いや、ミクも、問題はそこじゃないから！ てか倒しても殺さない工夫が欲しいんだけど！」

「オメガスレイヤーは男のロマンが分かってないなあ！ やはり武器というものは『一撃必殺』、こう見ただけでも敵わないと分かるような凶悪なものでない！」

「見て分からない様なバカを相手にしてるんです、俺は！ 見ただ目で降参してくれるようなヤツなら現状の武器でも十分過ぎるくらい十分です！」

「ミクとしては、やはりヒーローらしく己の体を使った必殺技が大事だと思いますよ？」

「えーい、黙れ！ このポンコツコンピュータが！ 実はお前スパソコンじゃなくてぴゅう太だろ？ 中身！ 人の話をちゃんと聞けよ！」

「（ ^ ^ ）なら、このドリルアームはどうだ！？ やっぱり漢はドリルだろ、天を突くドリル！」

「だから、五木田さんも趣味と感性だけで武器作るのやめてー！」

「むう、仕方ないな、では、この『超無力化ガス弾：五月病くん7号』はどうだ？ 何をする気力も無くなって、その場にへたり込むぞ？」

「おおっ！ そういうのを待っていたんです。で、使用法と注意点は？」

「使用法は簡単。オメガスレイヤーのオメガライフルのカートリッジを差し替えるだけ！」

「ほうほう、使い勝手は良さそうですね。」

「注意点は、風向きにもよるが着弾点の周囲2キロほどの範囲に効果が及ぶので、周囲に人がいないか注意が必要だな。」

「（。。。）ゴルア！！使えんわいつ！ ポケエツ！！！」

「（-。-）y-。。。 まだまだですねえ、五木田さん。」

「ん、ミクはなにかあるのか？」

「先ほどのオメガ粒子を利用した方法で、相手の周囲に地面に押し付けるフィールドを発生させるといふ攻撃がオメガスレイヤーには可能です。力の加減も押し付け過ぎて潰さなければ殺したりはしないので、これまでの攻撃を用いるよりは手加減が簡単なハズです。これを『オメガプレッシャー』と名付けましょう。」

「おお、かなり応用が利きそうな能力だな。訓練は必要そうだが逆に言えば必要な準備はそれだけか。で、注意点は何かあるか？」

「食らった相手の寿命が減ります。」

「へ？」

「効果時間10秒につき6年ほど寿命が減る計算ですね。」

「なんで？」

「高密度なオメガ粒子の照射にさらされますので、耐性のあるオメガスレイヤーの様な人間以外、遺伝子レベルの損傷が発生します。」

「\（^o^）/えつと、マズくない？ それ？」

「悪人に人権はありません。即死でないだけラッキーとも思っ  
て貰えればいいかと。地球の科学力じゃ因果関係証明出来ませんし。」

「（いいのかなあ、それ？）まあ、一応その使い方を教えてもらえるかな？ 訓練してみるよ。」

「第三演習場を開放しておきますね。データは端末に転送しておきます。」

「じゃ、そゆことで、お疲れ様でした。」

「「お疲れ（さまでした）。」「」



「やれば出来るじゃない！ 五木田さん！」と言ったら、得意げに高笑いしていた。

（後日、欠点判明。効果継続時間に個体差があり、最長12時間感覚が戻らないそうだ。まあ、オメガプレッシャーに比べれば、害は少ないよな？）

**第四話：ヒーローの秘密！ 新必殺技登場！（後書き）**

今回は五木田さん出せたんで、次は轟さんかなあ？  
オメガスレイヤーのヒーローとは関係ない日常もありかも？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2671n/>

---

ヒーロータイム、はじまるよ

2011年10月6日23時20分発行